令和6年度～令和10年度

老蘇学区
ふくし活動計画

育もう（はぐく） いつまでも住み続（す つづ）けたい

「老（お）いて 心（こころ） ますます 蘇（よみがえ）る郷（さと）」

令和6年4月

老蘇学区社会福祉協議会

老蘇学区まちづくり協議会

目　次

❶ 計画策定の経過と趣旨 …… 1

❷ 計画の位置づけ …… 1

❸ 計画の期間および計画の進捗管理 …… 1

❹ 基本理念・基本目標・行動計画 …… 2～7

❺ 老蘇学区の状況 …… 8～9

❻ 子どもたちの声 …… 10

❼ 福祉団体等活動紹介 …… 11～13

❽ 策定体制・委員名簿 …… 14～15

❾ 計画の推進に向けて …… 16

1 計画策定の経過と趣旨

近江八幡市と安土町との合併以降、老蘇学区における住民主体の福祉活動は安土地区社会福祉協議会を中心に、取り組んでまいりました。

合併後10年が経過し、より身近な学区単位で、まちづくり協議会と連携した福祉活動の展開が必要であることから、学区ごとの社会福祉協議会を組織する方向性が話し合われ、令和４年５月に老蘇学区社会福祉協議会を設立し、まちづくり協議会と連携した福祉活動のあり方を協議しながら、新たな体制での取組が始まりました。

令和５年度において、地域の代表者、医療福祉関係者、困りごとを抱える方、学生、学校、行政、地域の商店や事業所の方などが集い、語り合いながら、だれもが安心して暮らしていくために、こうありたい将来の姿を思い浮かべ、学区民が主体的に取り組んで行くための目標として「老蘇学区地域福祉活動計画」をまとめました。

2 計画の位置づけ

「老蘇学区地域福祉活動計画」は、老蘇学区まちづくり計画に示されている内容に基づき、地域福祉の推進を目的とした計画です。

老蘇学区民一人ひとりが地域の課題を「私たち」の課題として受け止め、課題解決に向けてできることに参画し、より良い方向につなげていくための目標として定めています。

コロナ禍を終えてこれからどのように、つながっていくか、助け合いの基盤を次の世代にどうつなげていくか、くらしの困りごとをどう解決していくのか、身近な地域である自治会や共通する課題は学区単位でなど、みんなでこうありたい姿に近づくよう話し合いながら取り組みを進めていきます。

3 計画の期間および計画の進捗管理

「老蘇学区地域福祉活動計画」の推進期間は、令和６年度から10年度までの５年間とします。ただし、推進にあたっては、計画の進捗管理を行う「地域福祉活動計画推進委員会」を組織し、必要に応じて福祉課題の変化等に対応できるよう見直しを行います。

4 基本理念・基本目標・行動計画

基本理念

育(はぐく)もう いつまでも住(す)み続(つづ)けたい

「老(お)いて 心(こころ) ますます 蘇(よみがえ)る郷(さと)」

私たち学区民一人ひとりが、自分にできることでつながりを持ち、住み慣れた老蘇で、だれもがいつまでも心身ともに健やかに暮らせる郷づくりをめざします。

基本目標

1.「声かけ」をしましょう

2.「つどいの場」づくりを進めましょう

3.「地域の宝」を活かしましょう

4.「防災意識」を高めましょう

5.「学校・園、施設、企業等」とのつながりを深めましょう

基本目標

1.「声かけ」をしましょう

コロナ禍を経て、更に地域のつながりが希薄になっており、高齢者や障がいのある人、地域のつながりの輪から孤立されている方など困りごとを抱えていても、見えにくくなっています。困りごとに早くに気づき、身近な地域での支えあいや支援につなぐことができるよう、あいさつや声かけ、誘い合いなど、まず自分からできることから始めていきましょう。

■行動計画

①あいさつから近所づきあい
②気になる人の見守り、ちょこっとおせっかい
③困りごとの受け止めと、支援へのつなぎ
④福祉サービス等の情報提供

あいさつ運動

■自治会や学区でできること

【自治会でできること】

・隣近所における、日頃からのあいさつや声かけ
・ゴミ出しや買い物などちょっとした困りごとへのお手伝い
・気になる人への見守り声かけ
・おたがいに見守り支えあう雰囲気づくり
・自治会活動を通じたつながりづくり

【学区でできること】

・困りごとの受け止めと、解決や支援につなぐ体制づくり
・移動を支える取り組みの推進
・自治会の見守り支えあい活動のサポート
・福祉活動や相談窓口等、定期的な情報提供の実施
・ICT(情報技術)を活用した見守り支えあい活動の検討

高齢者訪問

乳幼児訪問

基本目標

2.「つどいの場」づくりを進めましょう

交流の機会が少なくなっており、孤立している人もいる中で、安心して過ごしていくためには気軽に集まり、顔を合わせて横のつながりをつくる機会が必要です。

同じ興味や関心を持った人たちが主体的にグループをつくり、活動できる支援やつながりを進め、社会参加を増やす取り組みをしましょう。

■行動計画

①楽しく参加できる催し、行事の開催
②「このゆびとまれ」で気楽に集える居場所づくり
③子どもと大人がふれあう機会と場づくり
④子育てしやすい、若者に魅力ある環境づくり

サロン活動

■自治会や学区でできること

【自治会でできること】

・気軽に参加できる交流イベントの企画、実施
・ふれあいサロンやいきいき百歳体操などの居場所づくり

【学区でできること】

・自治会を巡回するような出前イベントの企画、実施
・自治会域のふれあいサロンへの活動支援
・好きな活動に参加できる場(旅行、料理、キャンプ、釣り、家庭菜園、サークル活動)をつくり、登録する仕組みづくり
・誰もが気軽に参加できる居場所づくり(ふれあいカフェなど)
・スクールガード(登下校の見守り)のボランティア推進
・若者も楽しく集えるインスタ映えスポットづくり
・おむすび食堂など世代を超えてつながる機会づくり
・子育てしやすい、若者に魅力ある環境づくりに向けた、子育て中の方や若者を交えた協議の場づくり

敬老の祝事業

おむすび食堂

基本目標

3.「地域の宝」を活かしましょう

地域には様々な資格や特技、趣味を持っておられる方やすでに活動されている方がおられます。自分にできることで、地域に関わっていただくことができれば、みんなで住みやすい郷にしていくことができるのではないでしょうか。

■行動計画

①得意なことや趣味を持つ人の把握と活かせる機会づくり
②活躍できる場の紹介や仕組みづくり
③誇れる郷を知り発信する組織づくり

■自治会や学区でできること

【自治会でできること】

・得意なことを持っている人の把握と協力の声かけ
・地域の催しを広く紹介し、良さを発信する

安土・老蘇まち協バンド

【学区でできること】

・「助けて」と「こんなことならできるよ」をつなぐ仕組みづくり
・継続して取り組める福祉活動を推進する組織運営のあり方の検討
・空き家や資源を活用し、老蘇学区の歴史や文化を学ぶ機会づくり
・事業実施に多くの方が関われる機会づくり
・歴史・文化の学習会を企画、開催できる組織づくり

シイタケ栽培教室

観音寺城跡

基本目標

4.「防災意識」を高めましょう

災害が起こった時、移動などに支援が必要な高齢者や障がいのある人を含めすべての人が安全に避難できるなど、一人も取り残さないために、防災意識を高め、日頃からできることを話しあいながら取り組んでいきましょう。

■行動計画

①「困った時はおたがいさま」で助け合うネットワークづくり
②地域に適応した防災訓練
③一人ひとりの防災意識の向上

見守り隊活動

■自治会や学区でできること

【自治会でできること】

・日頃の見守り声かけの実施
・災害時を想定した避難訓練、防災啓発活動の実施
・災害時に支援の必要な方への避難支援の仕組みづくり

【学区でできること】

・自治会の見守り支えあい活動の推進および、学区域の助け合いの仕組みづくり
・災害時を想定した防災訓練(避難訓練、避難所運営訓練、災害ボランティアセンター運営訓練など)の実施
・防災意識向上に向けて日頃からの啓発活動の実施
・企業等と連携した防災協議会の開催

総合防災訓練

女性消防隊の放水訓練

基本目標

5.「学校・園、施設、企業等」とのつながりを深めましょう

多様な福祉課題を学校・園や福祉関係者、行政、企業等と連携して、解決に向けた取り組みが必要です。協働できるネットワークづくりを進めていきましょう。

■行動計画

①学校、園などとの交流
②福祉関係者や行政・企業を含めた福祉ネットワークづくり

■自治会や学区でできること

【自治会でできること】

・自治会内の施設や商店などとの交流

【学区でできること】

・福祉に携わる関係機関や関係者、学校や行政、企業や商店等を交えた、福祉課題解決に向けた協働のための協議の場づくり
・企業、福祉施設などを訪問し情報交換
・企業等と連携した防災協議会の開催（再掲）
・学校、園との情報交換の機会づくり

老蘇小学校　田んぼの学校

老蘇ビオトープまつり
安土中学校吹奏楽部

老蘇こども園避難訓練

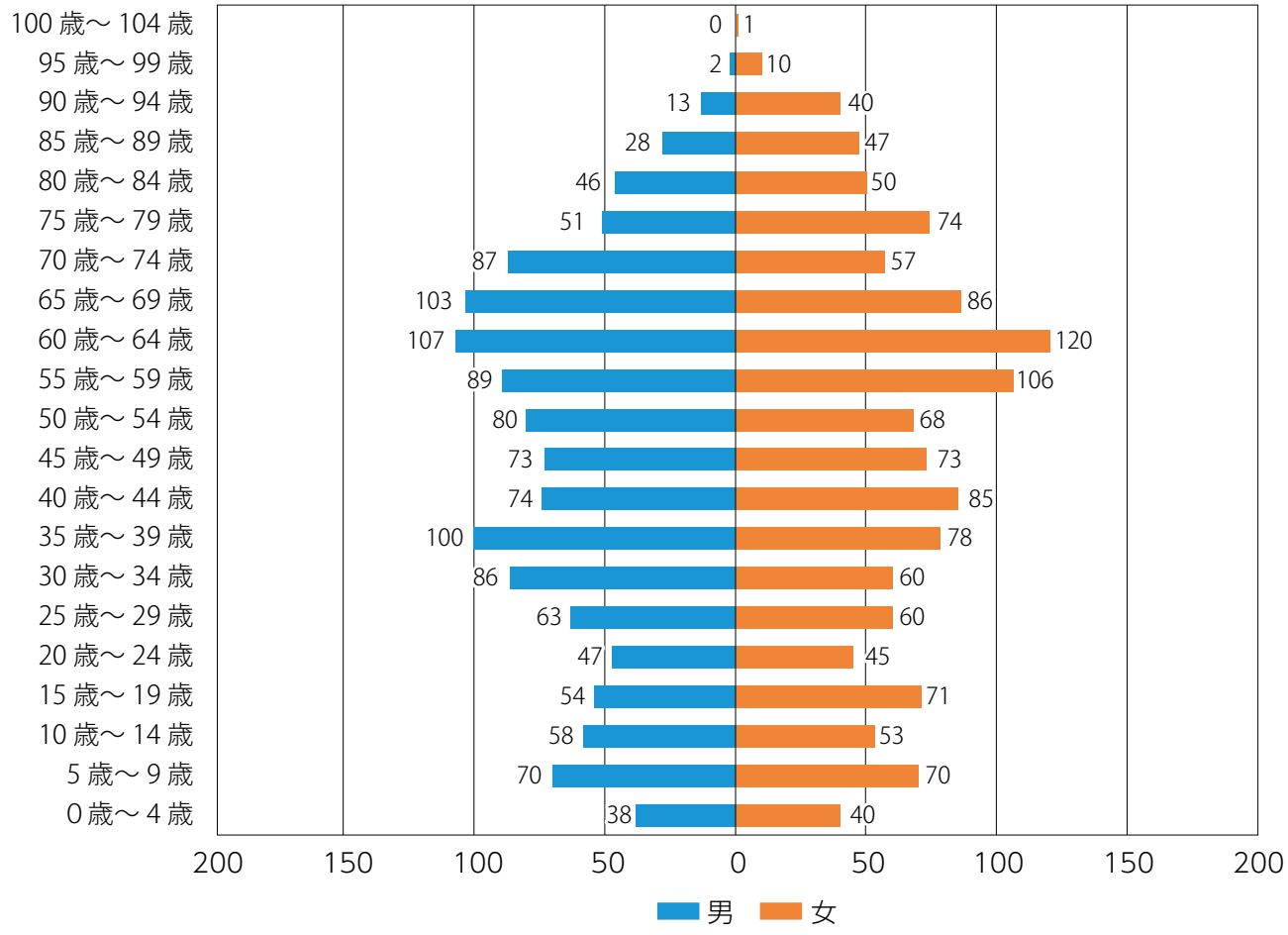
5 老蘇学区の状況

令和5年12月末時点の老蘇学区全体の高齢化率は、27.1％と近江八幡市全体の28.0％よりも低い。しかし、自治会別にみると14.5％から45.3％まであり、格差が大きい。新興の自治会は高齢化率が低いものの、平成２年以降の団地建設時に同年代者が入居し、親世代の年齢が上がっている。また、子ども世代は団地外に住む家庭が増加していて、近い将来、急速に高齢化が進むことが予想される。また、20歳から24歳の人口が極端に少なく、少子化が進むことにも留意が必要である。

老蘇学区人口分布（令和５年12月末現在）

	0歳～19歳		20歳～39歳		40歳～64歳		65歳以上		合 計
男 性	220人		296人		423人		330人		1,269人
女 性	234人		243人		452人		365人		1,294人
合 計	454人		539人		875人		695人		2,563人
	人口(人)	率(%)	人口(人)	率(%)	人口(人)	率(%)	人口(人)	率(%)	
老蘇学区	454	17.7	539	21.0	875	34.2	695	27.1	2,563人
近江八幡市	14,943	18.2	17,322	21.2	26,689	32.6	22,906	28.0	81,860人

老蘇学区人口ピラミッド　（令和５年12月末現在）

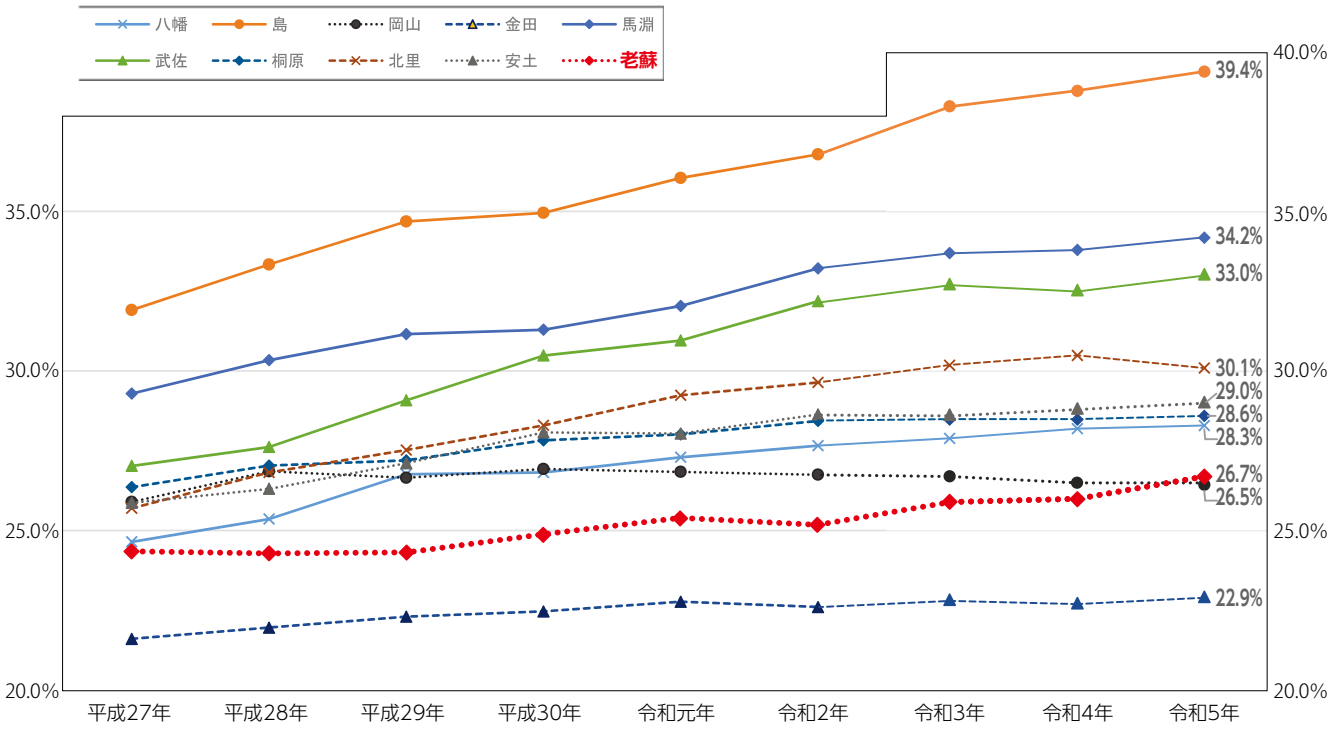


老蘇学区町別の人口と高齢化率　（令和５年12月末現在）

	全体人口			65歳以上				14歳以下			
	男	女	合 計	男	女	合 計	高齢化率(%)	男	女	合 計	比 率(%)
東　老　蘇	162	177	339	51	58	109	32.2	10	25	35	10.4
西　老　蘇	445	439	884	76	88	164	18.6	98	94	192	21.8
石　　寺	161	178	339	56	65	121	35.7	13	10	23	6.8
内　　野	187	195	382	77	96	173	45.3	20	9	29	7.6
老　蘇　台	100	108	208	33	29	62	29.8	8	9	17	8.2
老蘇団地	49	44	93	12	8	20	21.5	3	2	5	5.4
老蘇ニュータウン	165	153	318	25	21	46	14.5	14	14	28	8.9
老蘇学区全体	1,269	1,294	2,563	330	365	695	27.1	166	163	329	12.9
近江八幡市全体	40,240	41,620	81,860	10,232	12,674	22,906	28.0	5,552	5,366	10,918	13.4

老蘇学区合計	2,563人
世帯数	991世帯

学区別高齢化率の推移



資料：住民基本台帳人口（各年10月1日現在）

6 子どもたちの声

おむすび食堂に来た子どもたちに聞きました

色々な答えが返ってきました。多い順に三つ紹介します

「老蘇の良いところ・すきなところ」

ちいきの人がやさしい
自然がいっぱい
学校のグランドが広い

「どうして良いと思う」

あいさつをかえしてくれる
イベントが多いから楽しい
かけっこができる

「こんなものがあったら良いのにと思うもの」

コンビニ、スーパー
ゆうえんち、テーマパーク、ゲームセンター
プール、たいそうクラブ

「どうして」

あそびたいから
みんながたのしめるから
クラブかつどうができるから

「たすけあうとはどんなことだと思いますか

ともにきょうりょくすること
ひとりぼっちにしないこと
友だちと話し合うこと

おむすび食堂

調理

食事

宿題

つどい

7 福祉団体等活動紹介

◎老蘇学区民生委員児童委員協議会

老蘇まち協地域福祉部会や老蘇学区社協と連携して7名で活動しています。高齢者世帯や一人暮らし世帯、３歳未満の子育て宅に訪問しています。年末にはささやかな手作りのプレゼントをそえて配っています。学校や園にもあいさつ運動や訪問で連携しています。月１回「憩いのサロン」で相談活動をしています。地域自治会の見守りや敬老会、サロン活動も応援しています。

あいさつ運動

老蘇台サロン活動

◎安土赤十字奉仕団老蘇地区

人の痛みや苦しみに寄り添い命と尊厳を守る「人道」を柱とする赤十字の精神を基本とし、地域で出来る奉仕活動に取り組んでいて、老蘇地区は、東老蘇、西老蘇、内野の三分団で活動しています。年1回各分団が順番に老蘇コミセン敷地内の除草作業を実施するほか、学区の防災訓練や「おいそ０～100ひろば」等にも参加協力しています。

老蘇コミセンの除草作業

おいそ0～100ひろば

◎老蘇学区少年補導委員会

男子３名、女子１名で活動しています。主な活動内容は、毎月１日と15日に老蘇小学校正門前であいさつ運動を行い、また、毎週火曜日には小学生の下校時に青色防犯パトロール巡回活動を行っています。令和５年12月５日には、ふれあい事業として、老蘇小学校、老蘇こども園及びののはな保育園にて、子ども達と一緒にパンジーの植え付け活動を行いました。

パンジー植え（老蘇こども園）

見守り活動

◎地域密着型通所介護「いっぷく老蘇庵」

私たちは、ご利用者様の「自立した在宅生活の継続」「社会的孤立感の解消」「心身機能の維持向上」「ご家族様の新進的な負担の解消」等の為に、自分らしい活動や、自分らしい一日の過ごし方ができるように、一人ひとりの個性を尊重したサービスを提供する事業所作りをめざしています。今後も、老蘇地区の介護事業所として、地域貢献を積極的にしていきたいと思います。

いっぷく老蘇庵

いっぷく老蘇庵

◎近江八幡市健康推進協議会老蘇学区

老蘇学区健康推進員相互の連携と資質の向上を図り、健康づくり推進活動を活発にし、地域住民の健康を守り、健康増進に寄与することを目的に活動しています。

◎老蘇学区青少年育成会議

青少年問題のもつ重要性にかんがみ、広く学区民の総意を結集し、国・県および市の施策と呼応して、青少年の健全な育成を図ることを目的に、愛の学校訪問、小中園保でのあいさつ運動を行うほか、コロナ前には通学合宿も行っていました。

◎友愛クラブ

老蘇学区の老人クラブ会員相互の親睦を図り、コミュニティ(地域)づくりに寄与し、老人福祉の増進に資することを目的に活動しています。

◎安土地区特別支援教育振興会

特別支援教育への理解を深め、特別支援学級に在籍する児童生徒の居場所づくりと保護者を含めた交流を促進することを目的に活動しています。

◎障がい児支援団体安土すまいるの会

障がいのある子どもたちが地域のつながりの中で安心して余暇を過ごすことが出来るように、子どもたちや保護者への理解とつながりの輪を広げることを目的に活動しています。

◎近江八幡地区更生保護女性会安土分区

犯罪や非行のない明るい社会の実現に向け更生保護に協力し、女性の立場で子育て支援や、青少年健全育成の活動をしています。

◎社会福祉法人三穂の園　住倉安土元気園

『住んでみたい・住んでよかった・住みつづけたい』と思われるような施設づくりを目指しています。障がいがある方々が安心して暮らせるように... ご利用される方の能力を最大限に発揮して自己実現できるように... 地域に根付いたサービスを提供しています。

8 策定体制・委員名簿

策定体制

策定検討会議 … 計画にかかる会議の持ち方や協議内容の検討を行いました。
また、策定委員会やワーキング会議等の意見を整理しました。

ワーキング会議（各2回開催）

①見守り支えあい推進会議
②ふくしでまちづくり座談会

福祉課題や解決に向けての取り組みについて話し合いました。

策定委員会（7回開催）

ワーキング会議の意見を整理・集約し、計画の基本方針や取り組み目標、具体的な取り組みを定めるとともに、計画書への記載事項の検討を行いました。

事務局

老蘇学区社会福祉協議会事務局
老蘇学区まちづくり協議会事務局

協　力

市社会福祉協議会
市福祉政策課

各会議における協議事項の検討や、資料整理等を行いました。

見守り支えあい推進会議（ワーキング会議）

策定委員会

ふくしでまちづくり座談会（ワーキング会議）

策定委員名簿

［敬称略・順不同］

【策定委員会】　10名

氏　名	役職名
大林　義孝	老蘇学区社会福祉協議会会長
井上　嘉津美	老蘇学区自治連合会副会長
藤井　千恵子	老蘇学区まちづくり協議会地域福祉部会長

氏　名	役職名
安田　行	老蘇学区民生委員児童委員協議会会長
黒川　睦生	知識経験者
坪田　清美	知識経験者

氏　名	役職名
山田　靖弘	安土地区特別支援教育振興会老蘇学区代表
安田惣左衛門	老蘇学区まちづくり協議会会長
井上　亮一	老蘇学区青少年育成会議会長
廣瀬　敏	事務局

【ワーキング会議】
①見守り支えあい推進会議　30名

氏　名	役職名
井上　嘉津美	東老蘇自治会長
坪田　佐登美	民生委員児童委員
井上　藤美	福祉協力員
井上　法子	福祉協力員
大林　義孝	策定委員会委員長
安田　英一	西老蘇自治会長
安田　行	民生委員児童委員
井上　幸一	民生委員児童委員
安田　きく江	福祉協力員
廣田　洋子	福祉協力員

氏　名	役職名
安田惣左衛門	策定委員会委員
井上　亮一	策定委員会委員
山梶　俊一	石寺自治会長
志井　和美	民生委員児童委員
稲葉　敏子	福祉協力員
坪田　清美	策定委員会委員
畑　基造	内野自治会長
田中　美幸	民生委員児童委員
馬橋　豊	主任児童委員
辻井　美保子	福祉協力員

氏　名	役職名
仙波　妙子	福祉協力員
藤井　千恵子	策定委員会委員
藤田　孝史	老蘇台自治会長
猪田　道朗	民生委員児童委員
副島　雅邦	福祉協力員
太田　明夫	老蘇ニュータウン自治会長
井口　平	福祉協力員
黒川　睦生	策定委員会委員
山田　靖弘	策定委員会委員
森　和子	老蘇団地自治会長

②ふくしでまちづくり座談会　31名

氏　名	所　属
杉原　玄久	杉原医院
東森　侑介	いっぷく老蘇庵
内田　智教	社会福祉法人蒲生野会
久保　敦史	住倉安土元気園
藤井　美智子	知識経験者
川端　あゆみ	市福祉保険部
茶谷　健之	市総合政策部企画課
善住　晶子	老蘇小学校
山藤　槙也	学生
横川　未奈	学生
辻井　美恵子	保護司会

氏　名	所　属
中島　てる子	近江八幡市健康推進協議会
杉田　きみ子	近江八幡市安土赤十字奉仕団
神保　隆一	友愛クラブ
志井　和美	老蘇学区民生委員児童委員協議会
山梶　睦子	福祉協力員
藤井　清志	近江八幡市社会福祉協議会理事
辻井　沙織	ケアマネージャー
森　朋子	老蘇団地自治会
大林　義孝	老蘇学区社会福祉協議会
井上　嘉津美	老蘇学区自治連合会
藤井　千恵子	老蘇学区まちづくり協議会

氏　名	所　属
安田惣左衛門	老蘇学区まちづくり協議会
井上　亮一	老蘇学区青少年育成会議
黒川　睦生	老蘇学区社会福祉協議会
坪田　清美	老蘇学区社会福祉協議会
廣瀬　敏	老蘇学区まちづくり協議会
横川　明子	老蘇学区まちづくり協議会
重野　弘樹	近江八幡市社会福祉協議会
川村　知弘	近江八幡市社会福祉協議会
村北　知詠子	近江八幡市社会福祉協議会

9 計画の推進に向けて

令和６年１月１日、能登半島に大きな地震が発生しました。

被災された方は大変な状況です。その中で「お互いが助け合う」姿を見て、力強さを感じました。一日も早い復興を願うばかりです。

世界を新型コロナウイルス感染症が襲ってきました。何とか乗り越えることが出来ましたが、自然の力を制御することは未だに困難な状況です。

計画書を作成するに当たって、子どもたちの声を聞きました。「助け合う」ってどんなことだと思いますかと。こんな答えが返ってきました。「世界のあたりまえ」

この活動計画は常識の事が示されているのだと思います。

みんなが、「あたりまえ」のことをすれば、おのずと「いつまでも住み続けたい郷」になるでしょう。

多くの方々に関わっていただきこの計画書を作成しました。

これを推進するためにも多くの方々の力が必要です。

みんなで「老いて心ますます蘇る郷」をつくりましょう。

老若男女すべての人に参加いただきたい

老蘇ロゴマーク

【老蘇】～由来～

孝霊天皇の頃、近江国の地面が裂け水害により土地が荒廃していた時、石辺大連が災害を防ぐため木を植え神々に祈願したところ、たちまち森となり地を固めたという。(老蘇森)その後、大連は百数十年の歳を重ねても、壮年をしのぐほどであった為、『老いが蘇る』の意味で『老蘇』と称されたとされる。

老蘇の由来をコンセプトに渦巻く水(生命の渦)と森を表現。家紋イメージのデザインで歴史と伝統を表現。

発　行　令和6年4月

老蘇コミュニティセンター内

老蘇学区社会福祉協議会

みんながつながり、みんなで支えあう福祉のまちづくり

〒521-1332　近江八幡市安土町東老蘇1136-1

TEL&FAX：0748-46-8120　E-mail：oiso-cc@za.ztv.ne.jp